

平成28年度第1回放送番組審議会 議事録

開催日時 平成28年9月16日(金) 14時から15時15分
開催場所 三次市防災センター 1階会議室
出席者委員 福永清三・千崎由博・宗清弘樹・湯藤浩康・箕田英紀・添田龍彦・山岡幸子
重信富子・前田茂・岩崎積・石田睦子

説明員 (株)三次ケーブルビジョン
田坂代表取締役社長・新宅専務取締役・林取締役兼制作技術部長
山光管理部長・野田企画部長・幸住管理課長・津田制作課長・坪井技術課長
中村制作課員

1 開 会 定刻になり事務局が開会を宣言。任期満了に伴い、委員11名に対して代表取締役社長が放送番組審議会委員の委嘱状を交付、続いて代表取締役社長が開会にあたって挨拶する。

2 正副会長互選 放送番組審議会規則第5条に従い、会長及び副会長の選出に入り、会長に添田龍彦氏、副会長に重信富子氏が選出された。

3 会長挨拶 添田会長が就任にあたり挨拶を行い、放送番組審議会の務めを果たすために、委員の皆さんの支援と協力をお願いしたいと述べた。続いて重信副会長が就任にあたって挨拶を述べた。

4 審 議 審議に先立ち、制作課長が「開局10周年記念コーナー『発掘！あの日あの時』」について、資料に基づきコーナーの企画趣旨及び番組概要を説明した。
(今回も事前にDVDを送付した)

会長(司会) 視聴いただいたDVDの内容について、忌憚のない意見をお願いします。

委 員 「第1回 お母さんの詩コンクール 受賞者は今」という内容で見始めたが、お母さんとの別れという生活の大きな変化があったことが判り、コンクール内容とのギャップに戸惑いを感じた。最後には、それが将来の生きる方向性を導いたという内容で、番組としてはまとめられていたが、少し胸にきた。

委 員 開局から10年経ったので、このような企画が可能になったのかと思った。

当時取材したときの小学生が、大学生になったという成長の過程が見られた。また、その間の環境の変化もわかった。更に、この先の彼の何年か後の紹介もできればよいのではないかと思った。

委員 地域の情報番組として、各地の旬な話題を提供する番組が多い中で、今回は時間の流れを上手に使った番組になっていた。9年前の映像が残っているということで、同時にケーブルテレビの歴史も伝わってきた。

先程の委員さんも言われたように、私も途中で、予想外の展開に戸惑った。視聴者がどの部分に一番印象を持ったかによって、かなり番組の評価が分かれると感じた。

委員 9年前のイベントに、私も確か出席していたかなと思いながら見た。

母との別れを取り上げた点について、プライバシーの面で視聴者に先のことを勘ぐられるのではないか、番組として如何なものかと思った。9年経って当時の小学生が、このように元気に成長したという思いで見れば、嬉しく思う視聴者もいるだろう。

委員 小学生だった子が、大学生になっていた彼の成長の素晴らしさを見せてもらった。9年間の過程を飛ばして今の姿を見たので、その繋がりが難しいと感じた。人そのものに焦点を当てたのは、これまでになかった構成なので、ユニークな番組になっていたと思う。

委員 9年前の懐かしい映像から始まったので、良かったと思った。お母さんとの別れがあったことは驚いたが、彼が自分なりにそれを捉えて、大きく成長されている過程があるので、見る側はそれで受け入れられるのではないかと思う。取材をよく承知してもらえたなと思った。

委員 開局 10 周年記念番組として、視点を変えたものを現在放送されているが、地域の身近に感じる題材の放送内容は良いと思う。地域に根ざす TV 局として発案は良かった。

ただ公的な放送番組でもあるので、放送にあたって細心の注意を払う点が色々あろうと思う。

委員 当時のことを思い起こす内容で良かった。お母さんとのことは、露骨に出さない方が良かったのではないかと思った。将来に向かって、継続的に三次の子どもたちの姿が見られるものを作っていたきたい。三次の子供が市外へ出て

いって、また戻ってきた姿という、繋がりのある番組を見せてもらえたら嬉しいと思う。

委員 DVDを見て、感動し勇気もらった。彼は、プライバシーも含めて、視聴者に知られることを全て受け入れて、それを自分の力にして、自分の経験を活かすことは何かを考え、教師になるという道を見つけたのだと思う。今はその夢に向かっている、生きる力の強さを感じた。見る側も、人権という立場から、見る姿勢を正していかななくてはならないと改めて感じた。また、母親に対する感謝の気持ちが強く出ている点が、心に残った。

委員 私は、たまたま9年前の受賞時の彼の詩が印象に残っていて、覚えていた。今回の放送も当日、視聴していた。9年後を取り上げた放送を見て、あの時の児童だったのかと思った。先程から、母との別れについて、取り上げ方に課題があるのではという意見も出ているが、放送にあたって本人の承諾はもちろん得ていると思う。ほかにも人材や素材があっただろうに、敢えて彼を選んだのは、なぜなのかを知りたい。

また9月7日の放送では、君田小学校の当時6年生のニュースづくりを取り上げて、その何人かに集まってもらい現在の状況や思いを放送したのを見た。これも感動的だった。番組の意図として、子どもに焦点を当てたものにされているのだろうか。

会長(司会) 開局10周年記念番組ということで、懐かしい映像や年数を経て成長した子どもの姿に感動したという意見や、プライバシーの点からお母さんのことは出さない方がよかったのではという意見もあった。

番組として、彼のことを放送すると決定した理由は何だったのか。

社側 この「発掘!あの日あの時」は、毎月1回放送している。月別に振り返ってその月に取り上げた放送内容の中から、三次にしかないことを取り上げようと思った。5月は「はらみちを大賞・お母さんの詩コンクール」の受賞式があり、三次独自のものということで、その第1回の受賞者を取材しようとした。彼のことを調べ尋ねて取材したところ、現在お母さんが離婚されていることが判った。そこで、今回の放送は難しいかなと思ったが、本人が自分の経験したことを人に伝えたい、出させてほしいと言われた。そこで改めて取材をお願いし、放送することに決まった。

この10周年企画番組で私が大切に思っていることは、どうしたら視聴者に変化が伝わるかという点と、変わったことによって、前向きに元気に進んでいる

姿を伝えたいという2点である。これを伝えようとする、子どもにスポットを当てるが多くなってくる。

会長（司会） 彼自身が、経験を伝えたい、見てもらいたいという思いがあって、快諾を得て放送されたことなので、その点は問題ないと思う。実際、放送を見られて感動したという意見もいただいているので、番組としては良い内容だったと思う。ほかに、意見や会社に対する要望や質問等があれば、出していただきたい。

委員 放送を見て、彼と同じ境遇の子どもにも勇気を与えたのではないかと思う。

委員 機会があればまた出たいと言われたそうだが、彼が卒業して故郷に帰って教職に就かれたなら、その姿を取材していただけたらいいなと思う。

委員 三次市内には、国籍や文化の違う人が住んでいるし、家庭環境が様々な子どもが暮らしている。親の離婚を経験したけれども、彼が一生懸命生きているということが皆さんへのメッセージになったのではないかと思う。そこには、家族の配慮もあり、彼が逞しく生きているのではないだろうか。

会長（司会） 今回、開局10周年記念企画で放送されたが、更に10年後に彼を追跡取材される企画は、案としてあるのだろうか。

社側 映像の記録は、大きな財産であるので、活用していきたいと思っている。（10年後の企画は、今のところない）

会長（司会） 冒頭に、質の高い番組作りを目指すと言われたが、過去の記録として映像が残っていることは、三次市にとって大きな財産であると実感する。文化的な番組を残すことによって、価値のあるものになっていくと思う。

委員 先月、中学校での人権講座の1つとして、バスケットボール教室が開催され、放送があった。人権擁護委員協議会としては、スポーツ人権講座の意図があったのだが、その内容にもう少し触れてほしかった。

委員 現在の彼の登場場面に、もう少し工夫があれば更に良かったと思う。

委員 このDVDを見て、これからの彼が更に様々なことを経験して、どのように乗り越えていくのか、生きていかれるのか期待したい、注目したいと思った。

文部科学省では、子どもの生きる力、問題解決能力を伸ばすことを重視している。その力が現れている内容の番組だと感じた。これからの記録も撮っていただけなら、いいなと思う。

委員 先程、月毎の放送のなかから 10 周年記念コーナーを、制作しているとのことだったが、今までどんな内容のものを放送されたのか。

社側 例えば 6 月は、奥田元宋・小由女美術館で 8 年前に結婚式を挙げられたご夫婦を取り上げた。その夫婦は現在、市内に店を開かれており、その生活の変化を伝えた。主に人物にスポットを当てて取り上げた。

社側 開局 10 周年記念コーナーを制作するにあたって、人物像にスポットを当てた方が視聴者により判り易いという観点から、10 年前の映像から選んだ人物を取材して制作した。次に向かうステップとしての夢を持った人を取り上げて紹介したいというコンセプトになっている。

会長（司会） 先程から何人かの委員さんも言われたように、何年か後の彼を見てみたいという気持ちにさせてくれる良い番組であった。

委員 こうした取材の時には、本人はもちろんだが、映像に出ない家族にも了解をとるのか。

社側 今回は、彼の所在を教えてもらうために、実家に連絡してお父さんに内容を説明して了解をもらった。基本的に映像に出るときは、了解をとっている。

委員 この放送は、見る人に勇気や感動を与えただけでなく、本人にも勇気を与えるものになったと思う。ケーブルテレビの力は大きいなと改めて感じた。

会長（司会） 皆さんの意見が出揃ったようだ。本日はたくさんの貴重なご意見をいただき感謝する。これで放送番組審議会を終了する。

5 閉 会 事務局が本日のニュース番組「情報ストリート、あっちこっち三次」で、この審議会の模様を放送し、議事録を HP に掲載することを伝え、閉会した。